序　文

曽於市大隅町岩川は、『弥五郎どん祭り』のまちとして知られています。毎年十一月三日の深夜に『弥五郎どん』は目を覚まし、日中は『浜下り』と称して地元の子どもたちに引かれて市街地を練り歩き、まちは縁日として大いに賑わいます。

弥五郎どんは、身の丈四・八五メートル、二十五反もの梅染めの着物をまとい、ギョロリまなこに太い眉、大小二本の刀を差した勇ましい姿で、その風貌は泣く子も黙るといわれております。その正体は諸説あり、一説には隼人族の首領であるとか、また一説には五代の天皇に仕えた武内宿禰であるとかいわれており、今でもはっきりとはしていません。

昭和六十三年三月に『岩川八幡神社の弥五郎どん祭り』として鹿児島県無形民俗文化財に指定されているこのお祭りですが、県内では「弥五郎どんと言えば岩川、岩川と言えば弥五郎どん」と言われるくらい、この地に深く浸透しています。また当地域では、まち起こしの一環として、シンボルにもなっている高さ十五・八メートルの弥五郎どんの銅像をはじめ、弥五郎どんを取り入れた看板・信号機・モニュメントや、弥五郎の名を冠した特産品・飲食品・洋服・グッズ、そして東九州自動車道のインターチェンジ名「曽於弥五郎」など、枚挙にいとまがないほど、弥五郎の名が町中にあふれています。また、地元の岩川小学校では、同校の教育のシンボルとして「弥五郎どんのごっ」という石碑が設置されており、弥五郎どんのように胸を張り堂々と精一杯生き抜いて欲しいというメッセージが込められています。このように、まさに岩川の人々は小さい頃から弥五郎どんに触れ親しみ、弥五郎どんに見守られている地域で育ち、まち全体が一体となって、この伝統と歴史を今に引き継いでおります。

当市では、平成三十一年三月に『岩川の弥五郎どん』として、国の「記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されたことを契機に、文化庁の補助を受け、令和元年度から四年度にかけて、当行事の調査を実施し、その成果としてこの度報告書を刊行いたしました。本報告書が、南九州に根付いた大人人形行事の歴史や伝承を考えるうえでの一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査及び報告書の刊行に際して、多大なる御指導・御協力を賜りました文化庁、鹿児島県文化財課、地元の弥五郎どん保存会及び弥五郎どん祭り実行委員会の皆様をはじめ、これまで様々な形で交流や連携をさせていただいている都城市山之口弥五郎どん保存会・日南市飫肥の田ノ上八幡神社弥五郎保存会の皆様、そしてこの度、新型コロナウイルスの影響化の中、調査に尽力してくださった「岩川の弥五郎どん調査委員会」の委員の皆様に深く感謝を申し上げ、巻頭のごあいさつといたします。

令和五年三月　**鹿児島県曽於市教育委員会教育長　中　村　涼　一**

例　言

一、本報告書は、鹿児島県曽於市が文化庁の補助を受けて、令和元年度から四年度にかけて実施した岩川の弥五郎どん調査事業にかかる報告書である。十一月三日から五日にかけて曽於市大隅町岩川で行われる例大祭は、昭和六十三年三月二十三日に『岩川八幡神社の弥五郎どん祭り』として鹿児島県無形民俗文化財に指定を受けている。また、平成三十一年三月二十八日には『岩川の弥五郎どん』として記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されている。

二、本調査は、平成二十三年三月刊行の『大隅「岩川八幡神社の弥五郎どん祭り」調査報告書』を踏まえたうえで、祭礼の現状とこれまでの変遷を把握し、後世への継承に資することを目的に実施した。

平成三十年十一月三日、文化庁文化財第一課民俗文化財部門の小林稔主任文化財調査官による現地視察を経て、翌年三月に記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された。これを機に、文化庁の指導のもと、令和元年八月に弥五郎人形行事が残る三地域（宮崎県都城市・宮崎県日南市・曽於市）による協議を経たうえで、当事業の開始となった。

当初は、令和元年度に準備委員会の設置、同二年から三年にかけて調査委員会の設置および本調査等の実施、報告書刊行の計画であったが、新型コロナウイルスの影響で祭りが開催出来ず、令和四年度まで延長して事業を実施した。

・調査実績

令和元年度　都城市・日南市・曽於市による協議（八月三日）
調査準備委員会（十月二十四日）
本祭調査（十一月三日）

令和二年度　第一回調査委員会（八月二十六日）
個別調査（随時）
四年に一度の本体更新の調査（随時）
第二回調査委員会（十一月二日）
本祭（神事のみ実施）調査（十一月三～五日）
山之口（十一月三日）・飫肥（同月八日）の調査（いずれも神事のみ実施）

令和三年度　第三回調査委員会（三月十八日・書面開催）
個別調査（随時）
岩川（十一月三日）・山之口（同月三日）・飫肥（同月十四日）いずれも本祭は中止で、神事のみ実施
第四回調査委員会（二月八日・オンライン含む）

令和四年度　個別調査（随時）
第五回調査委員会（七月二十一日・オンライン含む）
第六回調査委員会（十月十九日・オンライン含む）
本祭調査（十一月三～五日・三年ぶりの通常開催）
山之口（十一月三日）・飫肥（同月十三日）の調査
第七回調査委員会（一月十一日・オンライン含む）

三、本調査の体制は次のとおりである。

・調査主体　曽於市教育委員会
・指導機関　文化庁文化財第一課民俗文化財部門

小林　稔　主任文化財調査官（令和元年度）
藤原　洋　文化財調査官（令和二～四年度）
鹿児島県教育庁文化財課
住吉啓三　指定文化財係文化財主事（令和元～二年度）
眞邉　彩　指定文化財係文化財主事（令和三～四年度）

・調査委員会
段上達雄　調査委員長
（別府大学　文学部史学・文化財学科 教授（民俗学））
出村卓三　調査副委員長
（鹿児島民俗学会幹事・姶良市文化財保護審議会委員）
所﨑　平　調査委員
（鹿児島民俗学会代表幹事・いちき串木野市文化財保護審議会委員長）
牧島知子　調査委員
（鹿児島県文化財保護審議会委員・鹿児島市文化財保護審議会副会長）
前田博仁　調査委員
（宮崎民俗学会会長）
永山修一　調査委員
（ラ・サール学園 中学部長 博士（文学））
勝目興郎　調査委員
（曽於市文化財保護審議会会長・元社会教育課文化財係長）

・事務局
曽於市教育委員会
瀬下　浩　教育長（令和元～三年六月二十六日）
中村涼一　教育長（令和三年六月二十七日～）
岩元　浩　社会教育課長（令和元年度）
内山和浩　社会教育課長（令和二～三年度）
竹下伸一　生涯学習課長（令和四年度～）
吉田竜大　社会教育課長補佐（令和元～二年度）
西留恒作　生涯学習課長補佐（令和三年度～）
加塩英樹　生涯学習課文化財係長（令和元年度～）
橋口拓也　生涯学習課文化財係主査（令和元年度～）
徳留隆仁　社会教育課文化財係主事（令和元年～二年度）
川満布志乃　社会教育課文化財係主事（令和三年度）
大森裕太　生涯学習課文化財係主査（令和四年度～）
（組織再編により、令和四年十月三日付けで社会教育課は生涯学習課となった）

四、本報告書の執筆分担ならびに凡例は次のとおり。

・執筆分担
第一章　第一～三節…段上達雄
第二章　第一～二節…加塩英樹
第三章　第一節…所﨑　平
第二節…永山修一
第三・四節…勝目興郎
第四章　第一～三・十二節…加塩英樹
第四・七・九・十節…牧島知子
第五・六・十一節…所﨑　平

第１回調査委員会（令和２年８月26日）

第八節…出村卓三
第五章　第一・二節…所﨑　平
第三節…出村卓三
第四節…牧島知子・加塩英樹
第六章　第一・二節…前田博仁
第三節…勝目興郎

表紙は平成二十九年十一月三日、口絵は平成二十七年から令和四年までの写真を用いた。付章（資料編）の古写真・文献資料・新聞記事等の選定は加塩が、文献資料・新聞記事の入力作業は加塩・川満が、略年表の作成は加塩が行った。測量図は㈱埋蔵文化財サポートシステム鹿児島支店による作成である。

本報告書の編集は、文化庁第一文化財課、鹿児島県文化財課、調査委員会の指導を受けながら、事務局の加塩が担当し、橋口拓也・徳留隆仁・川満布志乃・大森裕太がこれを補佐した。

・凡例

表記は原則、常用漢字を使用し、難読な漢字や地名等は適宜ふりがなを記す。

年表記については、和暦（西暦）表記とする。但し、併記は原則昭和までとする。

本文中の数字は原則、漢数字とするが、必要に応じてアラビア数字も使用する。

軽量単位は、カタカナの組文字を使用する。（例：メートル・グラム）

参考文献等の典拠は、各執筆者の判断に応じて、本文中または文章末に示している。

五、本調査で収集した資料は、曽於市教育委員会生涯学習課で保管している。

六、曽於市大隅町岩川五七四五に鎮座する八幡神社は、本来「八幡神社」が正式名称であるが、本報告書では通称の「岩川八幡神社」で表記した。なお、他地域の八幡神社もこれに準じた。

七、本調査を実施するにあたって、弥五郎どん保存会および同保存会製作部・弥五郎どん祭り実行委員会・岩川八幡神社および氏子総代・縫い子一同・宮仕の皆様をはじめ、祭りを支える地域の人々から多大な御協力を得ました。特に、左記の方々には聞き取り調査等でお世話になりました。記して謝意を表します。（敬称略・五十音順）

赤松正志　池之上淳一　大澤津幸子　川上久美　後藤大志郎
佐師正教　鮫島鶴吉　澤　俊文　園田幸子　長﨑美代子
中迫　勇　中迫浩志　中島勇三　中元照視　野口久夫
谷川正文　津曲芳夫　西　秀一　西留正昭　久留　守
福田順一　福丸　實　宮本清明　吉永一男　吉永隆文
山口十蔵　山口良久

同じく弥五郎人形行事を伝承している山之口弥五郎どん祭り保存会・田ノ上八幡神社弥五郎保存会の皆様や、都城市山之口総合支所地域生活課・都城市教育委員会・日南市教育委員会の皆様からも多大な御協力を得ました。

また、ここに記した方以外にも、様々な場面で情報をいただき、本報告書を作成することが出来ました。この紙面にて感謝申し上げます。

目次

第一章　総論……17
第一節　南九州の弥五郎人形行事……18
一　岩川八幡神社の弥五郎どん祭り　二　山之口弥五郎どん祭り
三　田ノ上八幡神社の弥五郎人形行事　四　日置八幡神社のデオドン
五　古文献に見る弥五郎人形行事
第二節　山車行事としての弥五郎人形……23
一　王面から弥五郎どんへ　二　弥五郎人形と台車
三　人形山車としての弥五郎どん
第三節　岩川の弥五郎どんの特色……27
一　大隅と薩摩での大人伝承の相違　二　大隅日向隼人の乱
三　弥五郎どんに寄せる思い　四　岩川八幡神社の弥五郎どんとホゼ
五　田ノ上八幡神社の弥五郎様　六　文化財としての弥五郎人形行事
第二章　岩川の地理・歴史・民俗……35
第一節　地理的・歴史的概要……36
一　地理的概要　二　歴史的概要
第二節　民俗の概要……40
第三章　岩川の弥五郎どんの歴史……45
第一節　岩川八幡神社の歴史……46
一　岩川八幡が初めてでき、衰退　二　岩川八幡の再建
三　如来の開眼供養と神社の発展　四　社司の黒岩家
五　弥五郎どんの始まり　六　岩川八幡の社地
七　現在の社殿と祭神・祭日　八　現代化への動き
第二節　古代・中世・近世の八幡信仰と弥五郎どん……50
一　八幡とは　二　隼人の戦いと豊前国
三　八幡神と神仏習合　四　九州における八幡宮の展開
五　南九州における八幡宮の展開　六　中世の八幡信仰
七　弥五郎どんと御霊　おわりに
第三節　近代の弥五郎どん……58
一　明治時代の弥五郎どん祭り　二　大正時代の弥五郎どん祭り
三　昭和終戦までの弥五郎どん祭り　四　まとめ
第四節　戦後の弥五郎どん……62
一　終戦直後のようす　二　まとめ
第四章　岩川八幡神社の弥五郎どん祭りの現状……67
第一節　祭りを支える町と組織……68
一　祭りの体制　二　弥五郎どん保存会
三　弥五郎どん祭り実行委員会　四　実行委員会各部の担当団体及び業務
五　令和四年度の弥五郎どん祭り事業経過
六　その他祭りを支える組織
第二節　祭礼の準備……76
一　岩川八幡神社の氏子組織と地域区分
二　祭りの準備（神社側を中心に）　三　祭りの準備（商工会側を中心に）
第三節　本体製作……79
第四節　衣装製作……88
第五節　祭礼の次第……95
一　岩川弥五郎の祭礼　二　山之口弥五郎の祭礼
三　飫肥弥五郎様の祭礼　四　三か所の弥五郎の比較
第六節　浜下り……102
一　浜下りとは（定義）　二　放生・放生池の問題
三　浜下り神事の引き手・御旅所の変遷

第七節　例祭……105
一　例祭について（秋期例祭）　二　十一月三日　弥五郎どん祭り本祭　三　十一月四日　中日
四　十一月五日　岩川八幡神社の例大祭・ホゼ祭りと弥五郎どんの解体作業
第八節　宮仕と祭礼具……108
一　神社組織と弥五郎どん浜下り　二　浜下り祭礼具
三　宮仕（ミヤダチ）
第九節　祭りと食事（料理）……115
一　ホゼ祭り　二　ホゼ料理
第十節　奉納芸能・奉納武道・屋台等……122
一　奉納芸能について　二　奉納武道大会等
三　屋台・出店　四　来客などへの振る舞い
五　市中パレード　六　のど自慢・歌謡ショー等の演芸大会
七　文化祭　八　前夜祭（どんドン祭り）
九　その他
第十一節　弥五郎どんの文化的広がり……126
一　弥五郎どんと言えば岩川　二　祭りが盛んになる
第十二節　コロナ禍での祭りの様子……130
一　新型コロナウイルスによる祭りの中止
二　思い出作りのための弥五郎どん浜下り
三　保存会によるその他の取り組み
第五章　岩川の弥五郎どんの祭礼具……133
第一節　弥五郎人形……134
一　胴体と腕の作成　二　衣を縫う・着せ方・面を付ける
第二節　台車……137
一　古い台車では　二　大正参年、現在地へ移ってから
三　機械の台車になる　四　三つの弥五郎どん（様）を比べる
第三節　弥五郎面……139
一　奉納面（王面）　二　掛け面（掛王面）
三　巡行する面
第四節　諸道具……148
一　頭上の鳥　二　鉾　三　刀　四　巾着
五　煙草入れ　六　印籠　七　草履　八　下駄
九　注連縄　十　大傘　十一　歯車装置
第六章　南九州の弥五郎人形行事と伝説・伝承等……153
第一節　的野正八幡宮の山之口弥五郎どん祭り……154
一　都城市山之口町の地勢　二　山之口町略史
三　的野正八幡宮と弥五郎どん祭り　四　隼人の乱と放生会
五　山之口弥五郎どん祭りの実際
第二節　田ノ上八幡神社の弥五郎さま祭……167
一　日南市概要　二　田上八幡神社と弥五郎さま祭
第三節　弥五郎どんの伝説・伝承……176
一　弥五郎どん・大人伝説
二　弥五郎どん・大人伝説地とその内容
三　弥五郎どん・大人伝説の分布範囲の濃淡
四　大人弥五郎伝説と時代
付章（資料編）……191
第一節　古写真等……192
第二節　文献資料等……205
第三節　新聞記事……221
第四節　弥五郎どん測量図……254
第五節　略年表……257